

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団 春光園うえみず
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 西区事務所
3	協力団体	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団 春光園うえみず
4	活動年月日	令和3年7月28日、7月30日、10月1日、10月6日
5	活動場所	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団 春光園うえみず
6	内容	障害を持った方との作業（手帳やカレンダーなどの解体）や散歩、レクリエーションなど
7	活動の様子	感染対策をした上で、障害を持った方の作業のお手伝いをしました。また、車いすを押して一緒に散歩をする等、コミュニケーションを取りながらたくさんふれあいました。 車いすを押して散歩に行ったり等、利用者さんと長い時間過ごすことが、すべて貴重な体験だった。 利用者さんとたくさん話せて、勉強になり、楽しかった。 作業をするときに、目がよく見えなかったり、手がうまく使えないなど、利用者さんの障害に配慮された仕事に分担されていた。それぞれの個性に合わせて、サポートできてよかった。 ★メッセージ★ コロナ禍のご負担がある中、ボランティアの育成のためご協力いただいた春光園うえみずの職員の皆様、ありがとうございました。 8月に緊急事態宣言が発出され、感染拡大防止のため受入中止となったことから、参加者からは、「1日しか体験できず残念だった。」という声もありました。 参加された皆様にとって今回の体験が貴重な体験となったようで、楽しみながら多くのことを学べたと感想をいただきました。

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	クリアファイルでつくる簡単マスクケース&メッセージカード作り
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 大宮区事務所
3	協力団体	大宮中部地区社会福祉協議会、工房あっぷりけ
4	活動年月日	令和3年10月24日、11月7日
5	活動場所	大宮区役所
6	内容	ボランティアさんに教わりながら地域の高齢者にプレゼントするマスクケースとメッセージカードを作る。

7 活動の様子

毎年、中部地区社会福祉協議会主催の高齢者サロンにボランティア体験学習の参加者が参加していました。感染拡大のためサロンの中止が続いていましたが、感染対策を講じ、コロナ禍でもできる触れ合いの形を検討しました。高齢者の方と直接話せなくても、マスクケースとメッセージカードに思いを込め、つかの間の触れ合いを楽しみました。

【ボランティアグループ工房あっぷりけの皆さんからの製作指導】

小学生から高校生までの男女8名がマスクケース&メッセージカード作りに参加しました。ボランティアグループ工房あっぷりけの皆さんからクリアファイルで作るマスクケース作りを教わりました。真剣な眼差しでケースに付けるシールを選定したり、一枚一枚凝ったデザインを考えるなど、終始楽しみながら製作していました。



【クリアファイルで作ったマスクケースとメッセージカード】



華やかな花型のカードを作り、メッセージを入れてマスクケースに添えました。
「コロナにも寒さにも負けず、お元気で」「このマスクケースを使ってコロナを乗り越えてください」など、高齢者の皆さんを想いながらメッセージを作りました。

【高齢者サロン参加者へプレゼント】

約2年ぶりに大宮中部地区社会福祉協議会でいきいきサロンが開催され、学生の皆さんも参加しました。高齢者の皆さんに直接マスクケースとメッセージカードを渡し、「素敵だね」「大切に使います」と笑顔で受け取られていました。



コロナ禍でのボランティア体験でしたが、参加された学生からは「地域の人と触れ合えていい経験ができた」「お年寄りの方に喜んでもらえて嬉しかった」「高齢者の方と沢山話せて良かった」など感想がありました。距離を取りながらの活動でしたが、高齢者の方とは心の距離が縮まった、そんな時間になりました。

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	雑木林の保全活動体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 見沼区事務所
3	協力団体	さいたま市みどり愛護会春里支部
4	活動年月日	令和3年7月26日
5	活動場所	春里自然の森
6	内容	雑木林内の下草刈り、植物と昆虫の観察など
7	活動の様子	

「春里自然の森」で育つ約30種の山野草を保全するための下草刈りとセミなどの昆虫観察を主とした体験活動となっています。



【参加者の声】

初めてのボランティア活動で何をするのか不安な点があったが、詳しく説明があって楽しく活動できました！

新型コロナウイルス感染防止対策として、参加者には活動日前日からの検温記録や体調管理と当日体調の確認、休憩中の水分補給の方法などにご留意いただきました。



さいたま市みどり愛護会春里支部は、都市緑地法に基づいた「良好な自然的環境を形成している緑地」を保全するボランティア活動を行っています。さいたま市内では沢山の特別緑地保全地区があり、春里支部は、見沼区小深作内にある「春里自然の森」を、下草刈りなどの保全活動で良好に保っています。こうした活動で保全された緑地は市民の憩いの場となり、同時に自然の豊かさを学べる絶好の機会を提供してくださっています。例年7月8月と2回の体験を予定しておりますので、体験活動を通じ、「自然の豊かさ」を体感してみてください！

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	絵手紙体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 岩槻区事務所
3	協力団体	絵手紙グループ ふじの会
4	活動年月日	令和3年8月19日
5	活動場所	さいたま市 岩槻駅前東口コミュニティーセンター
6	内容	絵手紙作成の体験

7 活動の様子



絵を描く楽しさを知りました。
この1枚で誰かが笑顔になると
思うと夢のようです。とても
素敵なボランティア活動だ
と思いました。

最初に絵手紙ボランティアがあ
ると聞いた時は、なぜ絵手紙が
ボランティアなのか疑問に思い
ました。でも、今回の活動を通
して、相手を元気づけることが
できる素敵な活動であることを
知りました。



参加者の作品の一部!!



ふじの会は、一人暮らし高齢者の誕生日などにあわせ、温かみのある絵と言葉を添えて「絵手紙」を作っています。受け取る人を思いながらひとつひとつ心を込めて描くため、受け取った人に「その思い」が通じていると思います。
この体験が、「誰かを思い、行動する」きっかけになってくれたら嬉しいです。

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	みんなが幸せに暮らすために、わたしたちができること
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 浦和区事務所
3	協力団体	ロービジョンラボ、さいたま市聴覚障害者協会、さいたま市障害者協議会
4	活動年月日	令和3年10月9日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	視覚・聴覚・下肢に障害がある方の日常の様子を聞いたり一緒に行動したりすることにより、自分たちができることを考える。

7 活動の様子

参加者5名、3時間盛りだくさんの講座でした！



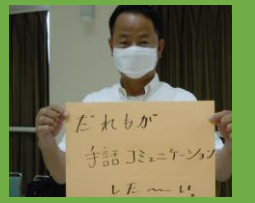
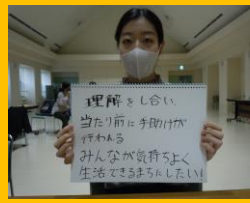
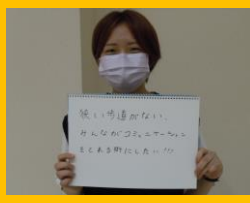
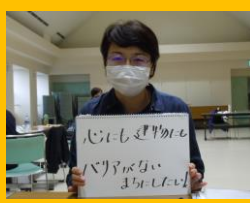
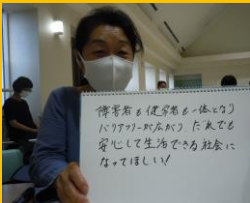
目の見えない人とともに歩く



耳がきこえない人に手話を学ぶ



車いすユーザーの日常に触れる



3人の講師と館内を一緒に行動した後、
今日のお話や体験から
「わたしはこんなまち（地域）にしたい！」
と思うことをスケッチブックに書き留めました。
講師の方にも思いを書きいただきました。

ひとりの力は小さいかもしれませんが、
同じ思いを周りに広げ、
一緒に幸せなまちを作っていきたい！
そんな思いがあふれていました。

令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	命を守る防災体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 浦和区事務所
3	協力団体	ユニバーサルデザイン・ステップ
4	活動年月日	令和3年8月14日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	普通救命講習Ⅰ

7 活動の様子

参加者は11名。中高生の参加が多かったです。コロナ禍でもできる救命活動を身に付けるため、3時間たっぷり使って実践しました。

この夏はコロナによる多くの死者数が報道され胸が痛む毎日でしたので、家族や身近な人の命を救うために自分ができることは何なのか、真剣に考える機会となりました。



今後、だれかがとつぜんたおれたら、どのような対おうをすればいいのかわか、どうしたら助かるかわかしたので、ぜったいに生かして、冷静に対おうして、命をたすけたいと思います。(小5女子)

タメになった。人が目の前で倒れるのがいつ起こるか分からないので、今回やってみて本当に良かった。(高1男子)



令和3年度彩の国ボランティア体験プログラムレポート

1	プログラム名	初めての点字体験
2	実施社会福祉協議会	さいたま市社会福祉協議会 浦和区事務所
3	協力団体	点訳グループうらわ
4	活動年月日	令和3年10月9日
5	活動場所	浦和ふれあい館
6	内容	点字や視覚障害の方についての知識を学び、点字器を使った読み書きの練習を行い、理解を深める。

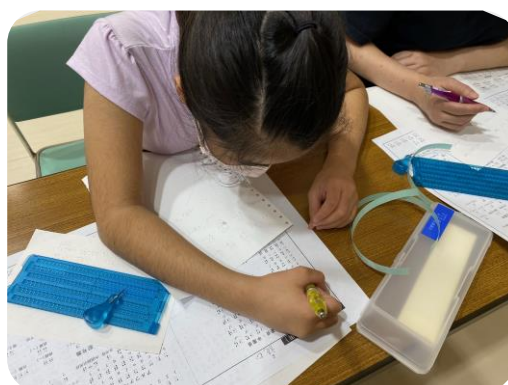
7 活動の様子



点字も点字器も、初体験！

「目の見えないひとがすすらと
わたしたちが本を読む時と同じ
スピードで読んでいるというこ
とがとてもびっくりしました」

(小5女子)



毎年実施している点字体験、
人気のプログラムです！

今年はお父さんにも
ご参加いただきました。

点字が必要な人がいる限り、
少しでも多くの人に知ってほしいと
思っています。

もし視覚障害の方を町で見か
けたら助けてあげたいと思いま
す。点字を読むのも難しいと思
いました。実際に打ってみて、
うまく打つことができなかった
ので、大変さを知りました。

(19歳専門学校生)